

第3 令和2年度県事業計画と令和元年度県事業実績

1 ふくしまの復興を担う産業人材の育成

(1) 新たな産業の創出に向けた人材の育成

県立テクノアカデミーにおいて、今後県内に集積・雇用が見込まれる再生可能エネルギー関連産業や医療関連産業、ロボット関連産業、航空宇宙関連産業等の新産業分野の動向も見極めながら、訓練科やカリキュラム等の内容について見直しを行い、新たなニーズに対応した教育訓練を実施する。

令和2年4月より、新たな2つの学科をスタートさせた。1学科は、テクノアカデミー郡山の組込技術工学科のカリキュラムを見直し、「知能情報デザイン学科」として、AI(人工知能)やIoT技術等をカリキュラムに導入するとともに、ソフトウェア開発技術に関するカリキュラムを充実させた。もう1学科は、テクノアカデミー浜の計測制御工学科のカリキュラムを見直し、「ロボット・環境エネルギーシステム学科」として、エネルギーの最適利用のためのエネルギーマネジメント技術やセンシング技術などのロボット関連技術をカリキュラムに導入した。

① 高度職業訓練〔専門課程〕(高卒2年課程／4訓練科／定員180名)

急激な技術革新に対応できる高度な知識・技能を備えた産業人材の育成を図るため高校卒業者等を対象に2年間の高度職業訓練を実施する。

【令和2年度計画】

校名	訓練期間	訓練科	定員(人)
郡山	2年課程	2	100
会津	2年課程	1	40
浜	2年課程	1	40
合計		4	180

【令和元年度実績】

校名	訓練期間	訓練科	定員(人)	入学者(人)	修了者(人)
郡山	2年課程	2	100	34	44
会津	2年課程	1	40	6	15
浜	2年課程	1	40	11	10
合計		4	180	51	69

※入学者には原級留置者、復学者は含みません。

◇年度別実施状況〔専門課程〕

【入学者の状況】

(各年度とも入学式現在(原級留置者を除く))

	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	
定員(人)	90	90	90	90	90	
応募者(人)〔応募倍率〕	76[0.84]	80[0.89]	74[0.82]	65[0.72]	53[0.59]	
入学者(人) 〔入学率〕	高卒	65	74	69	60	51
	短大卒以上	0	0	0	0	0
	合計	65[72.2]	74[82.2]	69[76.7]	60[66.7]	51[56.7]
中退者(人)〔中退率(%)〕	13[20.0]	2[2.7]	2[2.9]	5[8.3]	—	

※中退者は各年度1年生の中退者数。

【修了者の状況】

(各年度末現在)

	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	
修了者(人)	72	52	51	70	69	
就職者	71	52	51	68	68	
	県内	65	45	45	56	56
	県外	6	7	6	12	12
	進学	1	0	0	2	1
	その他	0	0	0	0	0
	未定	0	0	0	0	0
就職率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
県内就職率(%)	91.5	86.5	88.2	82.4	82.4	

※就職率は進学、その他を除いたものを分母とする。

② 未来を担う創造的人材育成事業

ア 背景および目的

本県には、航空宇宙産業の中核企業とその協力企業が多数立地している。また、航空宇宙産業は世界的に成長が見込まれることから、復興を牽引する重点産業に位置づけられており、更なる産業集積を目指している。

しかし、県内の製造業は深刻な人材不足に直面しており、当該産業への対応が可能な人材育成が急務である。また、継続的な産業集積のためには、若年者への当該産業に関する基礎的のものづくり基盤技術の付与が必要となっている。

イ 事業の概要

県内企業、関係研究機関やテクノアカデミー等が連携しながら、「航空宇宙関連産業」で求められる基礎的技術を習得するための教材を開発して若年者に提供するとともに、航空宇宙関連をテーマにした3Dデザインコンテストを実施することにより、若年者の「航空宇宙関連産業」に関するものづくり技術の基盤強化を行う。

ウ 令和2年度の計画

(ア)教材開発

- ・高等学校、テクノアカデミー等を対象とした、見学や講演会聴講を含む教材開発 4件
- ・航空宇宙関連の指導を行うために必要なスキル向上を目的とした指導者研修の実施

(イ)3Dデザインコンテスト

- ・事前講習
- ・3部門を設定したコンテスト実施

エ 令和元年度の実績

(ア)教材開発

高等学校、テクノアカデミー等を対象とした、座学および実習の教材開発 4件

(イ)3Dデザインコンテスト

応募総数 82点
内訳 小学生部門:18点、中高生部門4点、上級者部門:60点
最終審査および表彰式 令和2年1月26日(日) (コラッセ福島4F)

③ ふくしま中小企業等人材育成支援事業

ア 背景および目的

県内では依然として人手不足の状態が続いており、本県の復興を担う人材の確保、育成が大きな課題となっている。県内の雇用情勢は大幅な改善が見込めない状況にある中、社内人材育成の活性化による能力向上を通じて、企業力強化を図る。

イ 事業の概要

(ア)専門家による社内人材育成の伴走型支援

県内中小企業等に専門家を派遣し、各企業の人材育成に関する相談、課題調査・分析、企業ニーズに基づいた人材育成計画等の作成、企業ニーズに基づいた研修のマッチング等を伴走型で支援する。

(イ)研修情報ポータルサイトの新規開設・運営

県内で開催される国、県、商工関係団体等の職業訓練・研修等の情報を一元化したポータルサイトを新規開設し、県内企業に情報提供することで企業の人材育成の活性化を図る。

④ テクノアカデミーにおけるイノベ人材等育成事業

ア 背景および目的

イノベーション・コースト構想の推進に資する高い志を持った人材を育成するとともに人的裾野拡大を目指すことを目的とする。

イ 事業の概要

テクノアカデミーの訓練科見直し等を行うことで機能強化を図り、成長産業に位置づけた「ロボット関連産業」、「再生可能エネルギー関連産業」、「医療関連産業」などの各産業分野を対象として行ってきた成長産業等人材育成事業をイノベーション・コースト構想の推進に資する人材育成に重点を置き、初年度では「ロボット関連産業」、「再生可能エネルギー関連産業」を中心とした産業分野へ向けた人材育成を行うとともに、イノベーション・コースト構想を推進する人的裾野拡大のためにテクノアカデミー浜と福島ロボットテストフィールドを会場としたフェアを開催する。

ウ 令和2年度の計画

(ア) ロボット及び再生可能エネルギー関連産業推進人材育成

・ ロボット関連産業人材育成

ロボット技術の基本技術の一つである遠隔制御技術を学ぶために、ドローンや協働ロボット等を活用した実習をロボットテストフィールド等で行い、遠隔操作による自動制御技術を習得し、複数のセンサの情報を最適化した遠隔自動制御システムを改良改善できる人材を育成する。特に、生体信号利用技術を授業に取り入れ、生体信号を実際に制御対象(ドローンやクローラー型ロボット等)に適用させることのできる人材育成を行うとともに、3DCAD・CAMや各種NC加工機を活用して、多様な素材を用いてロボット構成部品を設計・製造することのできる人材育成を行う。

・ 再生可能エネルギー関連産業人材育成

住宅用太陽光発電及び小水力発電の普及促進を図るため、取り付け技術(設置、配管、電気配線等)を習得し、メンテナンスにも対応できる人材を引き続き育成し、特に住宅用太陽光発電施設ばかりではなく、不整地箇所への中規模太陽光発電所の設置需要に対応するためのCAD設計技術習得と併せて、高所や山間部に設置された太陽光パネルのメンテナンス需要に対応するためにドローンを用いたパネルの外観検査に係る一連の技術を習得し、発電施設の安定運用に携われる技術者育成を学生及び在職者に対して行う。

(イ) テクノフェア2020の開催

福島イノベーション・コースト構想を推進する人的裾野拡大のため、小中高校生や在職者、一般県民の方々を対象に、テクノアカデミー浜と福島ロボットテストフィールドにおいてテクノフェア2020を行う。

エ 令和元年度の実績

(ア) ロボット及び再生可能エネルギー関連産業推進人材育成

・ ロボット関連産業人材育成

備品購入: 筋電計(6式)、協働ロボット(2式)、シーケンサ制御システム(31式)

・ 再生可能エネルギー関連産業人材育成

備品購入: 図面作成用PC (31台)、ドローン(1式)

(イ) テクノフェア2019の開催

令和元年10月27日(日)の開催計画。台風19号により中止。

⑤ AI・IoT活用人材育成事業

ア 背景および目的

労働生産性向上を目指した技術・サービスの開発や社会実装の取組がなされるなど、AI・IoT技術が日常の企業活動や一般生活に組み入れられるフェーズを迎えた。

そのため、テクノアカデミーにおいてAI・IoT技術に関する職業訓練を行い、当該技術を利用した製品製造を担う人材と、当該技術により提供されるサービスを活用できる人材を育成し、県内企業へ輩出することが求められている。

イ 事業の概要

テクノアカデミーにおいて、「AI・IoT技術」を活用できる人材育成を行うため、ふくしま地域創生人材育成事業で開発したカリキュラムをベースにもものづくり分野の科目内容の見直しと、AI・IoT技術の活用が強く求められているサービス分野の科目内容の見直し、併せて訓練に必要な機器整備を行い、学生及び一部企業の在職者を対象にした職業訓練を行うとともに、一般向けの講演会等をとおして、当該技術の普及を図る。

(ア) ものづくり分野AI・IoT技術アドミニストレーター育成

テクノアカデミー郡山の組込技術工学科(知能情報デザイン学科)とテクノアカデミー浜の計測制御工学科(ロボット・環境エネルギーシステム学科)において、LoRa等の通信規格を利用したセンサーネットワークからビックデータを収集する等の課題を用いて、IoT技術の基礎となるM2M領域の知識・技術を習得し、県内製造業におけるAI・IoT技術の活用促進ができる人材育成を行う。

併せて、高校生等を対象にした講演会やワークショップの実施を通じて、AI・IoT技術の社会実装に貢献する技術者の裾野拡大を図る。

(イ) サービス分野AI・IoT技術アドミニストレーター育成

テクノアカデミー会津の観光プロデュース学科において、観光オープンデータや観光クラウドを活用したタイムリーな観光デジタルコンテンツの作成を行うとともに、大型ディスプレイを使った情報発信等の課題を用いて、観光分野におけるAI・IoT技術の活用促進が行える人材育成を行う。

併せて、高校生等を対象にしたワークショップの実施を通じて、AI・IoT技術をサービス分野で活用する人材の裾野拡大を図る。

⑥ 福島イノベーション・コースト構想推進産業人材育成・確保事業

ア 背景および目的

福島イノベーション・コースト構想(以下、「イノベ構想」という。)の実現に向けては、構想を担う高度な人材の長期的な教育・育成の基盤を構築することが不可欠であり、浜通り地域等の高等学校や高等教育機関による教育活動や職業能力開発の活性化を図り、イノベ構想関連事業の雇用拡大へつなげる。

イ 事業の概要

イノベ構想に資する人材の育成及び確保を目的として、イノベ構想に関連する県内の企業や高等教育機関、研究機関等と連携し、対象とする高等学校の生徒及びその保護者と教員、並びに大学等の学生を対象として、イノベ構想への関心を喚起するための取組と地元就職を促進するための取組を行う。

(ア)イノベ構想に関する理解を深める講座

企業や大学等から講師を招聘し、イノベ構想に関する講演を行う。

(イ)大学教授や企業担当者等による校内出前授業

企業や大学等から講師を招聘し、座学や実技等の講座を実施する。

(ウ)イノベ関連施設及び企業の見学

イノベ構想に関する施設見学やイベント参加を通じて、イノベ構想への関心を高める。

(エ)イノベ関連企業の見学

イノベ構想に関する企業を見学し、実践的な技術等に触れることで就業意欲を高める。

(オ)就職活動前の企業説明会

企業説明会を実施することで、就職率の向上を図る。

(カ)保護者を対象とした地元企業の理解を深める講演会

地元企業の理解深化を保護者に対しても行い就職率向上を図る。

【令和元年度実績】

- ・イノベ構想に関する理解を深める講座の開催(5回・1,265名)
- ・先端の技術を大学教授や企業担当者等が直接教える校内出前授業の実施(20回・1,656名)
- ・イノベ関連の拠点で先端テーマを学ぶ施設見学ツアーの開催(22回・1,039名)

⑦ ふくしま地域創生人材育成事業

ア 在職者訓練(ロボット関連人材育成研修)

在職者を対象にロボット関連分野の人材育成カリキュラムによる集合訓練を実施することにより、在職者のスキル向上及び処遇改善を図る。

【令和元年度実績】

- ・ 訓練期間 令和元年10月19日～令和2年3月14日
※10月19日(台風19号被害)、3月7、14日(新型コロナウイルス感染症拡大防止)について、訓練を中止。
- ・ 訓練時間 91時間(16日間)
- ・ 訓練者数 13名 県中会場11名 相双会場2名

イ 雇用型訓練(ロボット関連産業分野、ものづくり分野)

ロボット関連産業分野及びものづくり分野(製造業)において、各分野に取り組む県内企業へ委託し、雇用型訓練(企業内訓練とOff-JTを組み合わせた訓練)を実施することにより、より実践的で即戦力となる人材の育成を行い、関連企業等への就職を図る。

【令和元年度実績】

- ・ 訓練期間 令和元年11月23日～令和2年3月7日 (Off-JT)
- ・ 訓練時間 84時間(14日)
- ・ 訓練者数
ロボットコース 県中会場 5名
ものづくりコース 県中会場 11名
ロボット・ものづくりコース 相双会場 6名

ウ 若年定着ものづくり研修

中堅、新入社員を対象にものづくり分野における知識技能等に関する内容を含む階層別研修を実施することにより、職業観の醸成や技能習得、雇用環境の改善等による若年者の定着促進を図る。 ※産業支援団体への委託により実施。

【令和元年度実績】

県北会場

- ・ 訓練期間 令和元年7月10日～令和2年2月7日
- ・ 訓練時間 中堅社員54時間(10日間) 新入社員54時間(10日間)
- ・ 訓練者数 38名 中堅社員18名
新入社員20名

県南会場

- ・ 訓練期間 令和元年9月11日～12月12日
- ・ 訓練時間 中堅社員24時間(5日間) 新入社員42時間(8日間)
- ・ 訓練者数 39名 中堅社員17名
新入社員22名

(2) 人手不足分野での職業能力開発の支援

企業の復旧・復興に向けた人材ニーズに即応した学卒者訓練・在職者訓練を実施する。

① 普通職業訓練〔普通課程〕(高卒2年課程／6訓練科／定員240名)

地域産業の発展を支える技能者の育成を図るため、高校卒業者等を対象に2年間の普通職業訓練を実施する。

【令和2年度計画】

校名	訓練期間	訓練科	定員(人)
郡山	2年課程	1	40
会津	2年課程	2	100
浜	2年課程	3	100
合計		6	240

【令和元年度実績】

校名	訓練期間	訓練科	定員(人)	入学者(人)	修了者(人)
郡山	2年課程	1	40	17	16
会津	2年課程	2	100	29	27
浜	2年課程	3	100	42	26
合計		6	240	88	69

◇年度別実施状況〔普通課程〕

【入学者の状況】

(各年度とも入学式現在(原級留置者を除く))

		28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度
定員(人)		120	120	120	120	120
応募者(人)〔応募倍率〕		122〔1.02〕	144〔1.20〕	106〔0.88〕	119〔0.99〕	92〔0.77〕
入学者(人) 〔入学率〕	高卒	84	101	85	88	78
	短大卒以上	0	0	0	0	3
	合計	84〔70.0〕	101〔84.2〕	85〔70.8〕	88〔73.3〕	81〔67.5〕
中退者(人)〔中退率(%)〕		9〔10.7〕	17〔16.8〕	17〔20.0〕	9〔10.2〕	—

※中退者は各年度1年生の中退者数。

【修了者の状況】

(各年度末現在)

		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
修了者(人)		100	83	77	81	69
就職者	就職者	100	83	77	80	66
	県内	89	80	71	69	57
	県外	11	3	6	11	9
	進学	0	0	0	1	2
	その他	0	0	0	0	1
未定		0	0	0	0	0
就職率(%)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
県内就職率(%)		89.0	96.4	92.2	86.3	86.4

※就職率は進学、その他を除いたものを分母とする。

② 離職者等再就職訓練事業(長期高度人材育成コース/定員46名)

【令和2年度計画】

<令和2年 入学>

校名	訓練期間	訓練科名	募集定員	応募者数	入校者数	進級者数	修了者数	就職者数	就職率
郡山	R2.4~R4.3	介護福祉士養成科	20	22	19	—	—	—	—
会津	R2.4~R4.3	准看護師養成科	10	6	6	—	—	—	—

【令和元年度実績】

<平成30年 入学>

校名	訓練期間	訓練科名	募集定員	応募者数	入校者数	進級者数	修了者数	就職者数	就職率
郡山	H30.4~R2.3	介護福祉士養成科	30	12	10	9	9	9	100%
会津	H30.4~R2.3	准看護師養成科	30	7	5	4	4	4	100%

<平成31年 入学>

校名	訓練期間	訓練科名	募集定員	応募者数	入校者数	進級者数	修了者数	就職者数	就職率
郡山	H31.4~R3.3	介護福祉士養成科	20	16	14	12	—	—	—
会津	H31.4~R3.3	准看護師養成科	20	2	2	2	—	—	—